

あなたの本との出会いをお手伝い……図書館領り

# BOOK 5

BOOK は図書館のワクワクを皆さんにお伝えるメディアです。皆さんが図書館に感じるワクワクも教えて下さらない人に教えてあげましょう。

2012年12月20日発行 毎月発行  
発行 & 編集 = 山形村図書館を愛する会

本の中で、私達は、どのような世界にも、旅する事が出来る。  
そして図書館は、その世界への扉。さあ、あなたも扉を押して旅に出かけよう。  
いろいろな世界があなたを待っている。

# 図書館は旅への扉。

## 履歴が残ると有難い

私は1年間に50冊ぐらいの本を読みます。そのほとんどを図書館からお借りしています。

なぜかという、新刊のリクエストには応えてもらえないし、美人の司書さんがいるからです、というのは、ごますりです。

読んだ本の題名、作者、感想などを記録しているのに、本屋さんで買った本がすでに家にあつたということがしばしば。

買つても再読する本はあまりなくて溜まる一方、これでは家がつぶれる!!!と思うことがときどき。これが図書館利用の本当の理由です。

図書館では返却と同時に借

りた本の履歴が消えてしまうようです。自分が借りたことがあるかどうかかわかるとありがたい。読み始めてから「読んだことあつた!」と気づく中年です。(S)

## 山形村図書館のいいところ

その1、はやい。新刊本がでたらあつという間に図書館で紹介されてる。

その2、図書館全般に言えることだけど、買わずに済むので「安い」。

その3、BOOKおすすめ新着本で紹介された宮部みゆきの新作「ソロモンの偽証」、何人か經由して手元に来たけれども、新品のような状態である。みなさんの読み方が「うまい」のか、図書館での保管状態が上手いのか。

「早い・安い・うまい」

# 今号も「わたしの図書館利用法」届きました。 あなたはどんな利用法?



文化祭で、フェルトの生地とプルトップを使い来年の干支「ヘビ」作りに一生命な子供達。指導はモモセ司書

## 心に残る詩

平沢典義 選  
図書館を愛する会

震えるほどに共感出来る詩との出会いは、きつとあなたを幸せにしてくれる。そんな詩を求めて……。

第四回は、山村暮鳥さんです。平易な言葉だからこそ一層、詩人の深い孤独を感じます。

### 手

しつかりと  
にぎつてゐた手を  
ひらいてみた

ひらいてみたが  
なんにも  
なかつた

しつかりと  
にぎらせたのも  
さびしさである

それをまた  
ひらかせたのも  
さびしさである



11月に開催された「ナイト・ライブラリー」で聴き入る子供達に語る安田さん

の3拍子が揃った山形村図書館は、身近にある庶民の味方。聞いたことのあるようなフレーズでちよつと無理がある？

いえいえ、肩肘張らず、気軽

に立ち寄れるという意味でもありますから。

### 人との距離感がいい

(M)

私は、山形村図書館の“人”がいて、顔が見えるところが好きです。

館を初めて訪れたとき、私は調べ物をしたかったのですが、自分で見つけられず司書に相談しました。

すると、彼女は即座に適当な本を出してくださいました。少しも迷うことなく。

図書館や書店で、パソコン検索をして本を提案してくれることはよくありますし、自分でネットを使って調べられることもできます。けれど、ちよつど良いものにとどり着くのは意

外と難しいものです。

本探しに限らず、自分で見つけられるときは良い。けれど、そうでないとき（実用的なことはかりでなく）、人と会って話すことでしか得られないものがあることに気づきます。

この図書館は、挨拶しやすい距離と、話してみようかなあと思う人たちがいます。そこが素敵だなと私は感じています。(W)

### 「たとへば君 四十年の恋歌」

河野裕子 永田和宏  
文芸春秋刊

たとへば君ガサツと落葉すくふやうに私をさらって行ってはくれぬか  
しっかりと飯を食わせて陽にあてしふとんにくるみて寝かす仕合せ

毎日歌壇、NHK短歌の選者であった歌人河野裕子と夫の歌人永田和宏が紡いだ相聞歌

### 私のこの一冊

百瀬景子  
図書館を愛する会



とエッセイ。

出会いから二年前に河野が乳癌で逝くまでの夫婦の愛と家族の絆が、短歌を通して心に浸みます。短歌なればこそ表現できる心の叫びやぬくもりを感じ、心を熱くする冊です。



絵：おおはし こうじゅん

10、11月の貸出ベスト10

- 1位 虚像の道化師 / 東野圭吾
- 2位 松本山雅劇場 / 宇都宮徹彦
- 3位 ソロモンの偽証! / 宮部みゆき
- 4位 脳には妙なクセがある / 池谷裕二
- 5位 鍵のない夢を見る / 辻村深月
- 6位 白ゆき姫殺人事件 / 湊かなえ
- 7位 重ね煮だからすぐおいしい / 梅崎和子
- 8位 シルバー川柳 / 全国有料老人ホーム協会
- 9位 空飛ぶ広報室 / 有川浩
- 10位 月と雷 / 角田光代

ももせの図書館日記

「本屋さんのしかったねー」

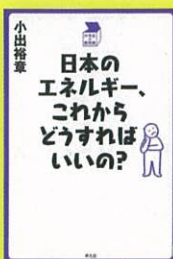
松本駅前にオープンした老舗書店の丸善は、本好きにはたまらなく魅力的な空間です。駐車料金の心配をしなくていいなら、一日中居座りたいと思っています。入口で話題の本をチェック。2階で実用書の棚をざっと眺め、児童書には必ずはまります。地下の専門書は充実していますね。専門書の棚を眺めている人を眺めるのがけっこう好きです。顔つきやかもしだす雰囲気が専門書とリンクします。そこで私は哲学書通りをうろついてみるのですが、いかがでしょう……。児童書コーナーで、カゴに山ほど絵本を入れていた子がいました。「ここは図書館じゃないからねー」っておかあさんが青くなっていました。(笑) いつも図書館利用してくれているのかな?2歳くらいの女の子が「本屋さんのしかったねー」とご満悦でした。

おねえさん、おすすめ新着本

「あと少し、もう少し」瀬尾まいこ  
駅伝を目指す小さな中学校の陸上部。中学生の心の機微を描かせたらやはりこの人はすごい!



「日本のエネルギー、これからどうすればいいの?」小出裕章  
中学生にも分かってももらえるように書かれています。大人も学ばう。



「介護サービスの基礎知識」三浦文夫編  
困った時にお役にたちます。介護サービスのハンドブック。



「旅猫リポート」有川浩  
一人と二匹の心にしみいるロードノベル。



「地下鉄ネズミのミニーどぶねずみ大作戦」シュワルツ  
はつかねずみのミニーたちの戦いぶりが愉快です。



「シロナガスクジラより大きいものついでなの?」ウエルズ  
世界一大きいシロナガスクジラをいっぱい瓶詰めにして、ひゃあ、何と比べるの?



世界一大きいシロナガスクジラをいっぱい瓶詰めにして、ひゃあ、何と比べるの?

編集後記

号を重ねる毎に「BOOKはずっと発行されるでしょうね」と、声をかけられる事が多くなり、予想以上の反響に驚き、次への励みになります。十月十四日、村民の図書館登録者が二十人に達しました。四人に人が登録された事になります。全国平均から見ると、小さな図書館ですが、皆さんに来館いただくため、更に工夫を重ねたいと思っています。11月下旬には図書館イベントの環として「エントライブラリー」を二回に分けて開催。小学生から年輩の方まで、素晴らしいひと時を楽しんでいただきました。(稔 記)

STAFF ● 編集長：村井稔 ● 編集委員：図書館を愛する会 / 村井稔 / 石川弘美 / 平沢典義 / 和田大生 / 安田美和 / 古屋加代子 / 市瀬徹 / 百瀬景子 / 沖津弘門 / 須永恵次 / 保坂彦  
◎ 原稿：百瀬恵津子 / 石川弘美  
◎ デザイン指導：森の中のデザイン室